令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	スポーツの振興					担当課名	教育こども課
						担当係名	健康スポーツ係
（予算書コード）	10-05-01-05-01・10-01						
事業区分	継続予算	運営方法	直　営	委　託			
事業の開始・終了	年　月 ～　年　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）						
根拠法令等の名称	スポーツ基本法						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	下諏訪町スポーツ推進計画の基本理念に掲げる「生涯一町民一スポーツ」を目指し、町民の体力と健康志向の向上を図り、スポーツの実践が町民の生きがいとなる、地域に根ざした生涯スポーツ社会の実現を目指す。NPO下諏訪町スポーツ協会への各種スポーツ大会や教室等開催の委託、スポーツ推進委員によるニュースポーツ教室等の実施により、子どもから高齢者まで幅広くスポーツの普及を図る。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	大会及び教室等への延べ参加者数	集計数値	人	目　標	26,000	26,000	26,000
				実　績	22,338	29,698	29,536
				達成率	85.9%	114.2%	113.6%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算		令和7年度決算		令和8年度予算	
事業費	事　業　費　A		11,324 千円		11,161 千円		10,446 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費		1.00 人	3,672 千円	1.00 人	4,424 千円	1.00 人	4,577 千円
	正規職員人件費　B		0.90 人	6,244 千円	0.90 人	6,566 千円	0.90 人	6,755 千円
事業費合計　C（A＋B）			17,568 千円		17,727 千円		17,201 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担		千円		千円		千円
		県の負担		千円		千円		千円
		町の借入		千円		千円		千円
		その他	18 千円		1 千円		25 千円	
		うち 使用料・手数料　D		千円		千円		千円
	一般財源（町の負担）		17,550 千円		17,726 千円		17,176 千円	
受益者負担率（D／C）			0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	スポーツの振興は、国のスポーツ基本法のもと策定した下諏訪町スポーツ推進計画に基づき、誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくりを目指して、町が進めていく必要がある。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	各種スポーツ大会や教室等は、町及びスポーツ推進委員の主催、NPO下諏訪町スポーツ協会各専門部の主催により実施しており、子どもから高齢者まで幅広く参加できる機会を提供している。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	各種スポーツ大会や教室等は、NPO下諏訪町スポーツ協会への委託、体力づくり教室、ニュースポーツ教室、出前講座等は、スポーツ推進委員が実施しており、効率的かつ効果的に実施できている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	A	目標値以上である	各種スポーツ大会や教室等への参加は、少なからず少子高齢化や人口減少の影響が考えられるが、引き続き、新たな参加者を獲得できるようNPO下諏訪町スポーツ協会、スポーツ推進委員と連携しスポーツを実践する機会を提供していく。

総合評価	コスト低減	引き続き、第3期下諏訪町スポーツ推進計画に基づいた施策を展開するとともに、NPO下諏訪町スポーツ協会、スポーツ推進委員等の意見、教室等参加者の要望等を取り入れたイベント等の開催により、スポーツの振興を図る。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	民間等によるスポーツ教室も増えて来ており、町主催による教室の開催を見直し、令和8年度は対前年決算額に対し、約7%のコスト低減を図った。

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	スポーツ施設の整備充実	担当課名	教育こども課
		担当係名	健康スポーツ係
（予算書コード）	10-05-02-10-01、10-05-03-05-01・10-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法	直営 ／ 委託	
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称			

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	体育館、総合運動場、屋内運動場及びローイングパークは、スポーツ振興の拠点であり、利用者が安心して利用できるよう、施設の予約から維持管理まで直営で行っている。 総合運動場の受付はNPO下諏訪町スポーツ協会に、施設整備はシルバー人材センターに委託している。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	施設利用者数	集計数値	人	目標	105,000	105,000	105,000
				実績	111,144	98,719	139,925
				達成率	105.9%	94.0%	133.3%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事業費 A		41,529 千円	28,835 千円	30,105 千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B		1.20 人 8,325 千円	1.20 人 8,754 千円	1.20 人 9,007 千円
事業費合計 C（A＋B）			49,854 千円	37,589 千円	39,112 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	15,868 千円	9,482 千円	8,959 千円
		うち 使用料・手数料 D	6,824 千円	7,011 千円	7,421 千円
	一般財源（町の負担）		33,986 千円	28,107 千円	30,153 千円
受益者負担率（D／C）			13.688 %	18.652 %	18.974 %

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	町営の施設であり、町が管理運営する必要があるが、委託できる業務は可能な限り委託し、経費の節減に努めている。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	B	検討の余地がある	施設の予約は、誰でも公平に手続きできるよう窓口での手続きを原則としている。施設の使用料は、NPO下諏訪町スポーツ協会の各種スポーツ大会や教室等に対しては減免措置をとるなど、利用しやすい料金設定となっている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	B	検討の余地がある	公共施設等総合管理計画（スポーツ系施設　個別施設計画）に基づき予防的修繕を心がけるとともに、施設の劣化状況等から優先順位をつけ、助成金等を活用しながら計画的に改修していく必要がある。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	A	目標値以上である	施設の利用者数は、いろいろな要因で増減はするが、引き続き、利用者が安心して利用できるよう予防的修繕を心がけ、施設の整備と充実を図っていく必要がある。

総合評価	拡充	各施設の老朽化に伴う改修は、小規模なものから大規模なものまで様々あり、優先順位をつけ、年次計画的に改修を進めていく必要がある。各種大会を実施していくために現在の競技ルールに即した施設となるよう改善や修繕を行う。その際には、スポーツ振興くじ助成金等を活用しながら整備充実を図っていく必要がある。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	令和8年度は、屋内運動場照明のLED化を予定し、対前年比で約5%の予算額増としている。照明のLED化により、必要照度までの時間短縮による利便性の向上と、より多くの利用に繋がることが期待できる。

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	健康運動施設の運営	担当課名	教育こども課
		担当係名	健康スポーツ係
（予算書コード）	10-05-04-05-01・12-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法：直　営		
事業の開始・終了	令和　3　年　4　月 ～　　年　　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	下諏訪町健康運動施設条例、下諏訪町健康運動施設条例施行規則		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	子どもから高齢者まで幅広い年代の地域住民の、心身の健全な発達や健康づくりを支援する拠点施設である健康増進施設（健康ステーション、健康フィールド）を、利用者が安心して利用できるよう、管理運営する。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	健康ステーションの利用者数	年間の利用者数	人	目　標	6,500	13,000	15,000
				実　績	13,447	18,017	20,314
				達成率	206.9%	138.6%	135.4%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算		令和7年度決算		令和8年度予算	
事業費	事　業　費　A		10,447 千円		11,554 千円		11,637 千円	
		うち 会計年度任用職員人件費	1.00 人	2,391 千円	1.00 人	3,694 千円	1.00 人	3,343 千円
	正規職員人件費　B		1.00 人	6,938 千円	1.00 人	7,295 千円	1.00 人	7,506 千円
事業費合計　C（A＋B）			17,385 千円		18,849 千円		19,143 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担		千円		千円		千円
		県の負担		千円		千円		千円
		町の借入		千円		千円		千円
		その他	7,102 千円		7,831 千円		7,291 千円	
		うち 使用料・手数料　D	7,033 千円		7,795 千円		7,267 千円	
	一般財源（町の負担）		10,283 千円		11,018 千円		11,852 千円	
受益者負担率（D／C）			40.454 %		41.355 %		37.962 %	

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	当施設は健康スポーツゾーンの拠点施設として位置付けられ、町民の健康増進に関する施策を展開していくうえで、町関係部局と連携した柔軟な対応が求められることから、直営により運営していくことが最善である。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	町外の利用者も一定数いるが、在住者や在勤者とは利用料に差を設けている。また、利用頻度に応じ、1回券、回数券、定期券を選択することができるようにしている。定期的な無料体験会を契機として、多くの地域住民に足を運んでもらい、新規登録者を増やしていく。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	必要最小限の予算で効率的に運営している。 人員配置についても、施設の運営、実施事業の内容から適切と考える。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	A	目標値以上である	健康ステーション、健康フィールドともに利用者数は伸びている。引き続き施設の周知を図るとともに、継続的な利用を促進し、地域住民の健康福祉に寄与していく。

総合評価	現状維持	利用者からの要望やニーズを的確に把握し、更に利用しやすい施設となるよう改善に努め、地域住民の健康づくりを支援する拠点施設として、現在の運営体制を維持していく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	**健康運動支援事業**	担当課名	教育こども課
		担当係名	健康スポーツ係
（予算書コード）	10-05-04-14-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法：直営 ／ 委託		
事業の開始・終了	令和 3 年 4 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	下諏訪町健康サポーター設置要綱		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	諏訪湖畔の健康スポーツゾーンに所在する健康ステーション、健康フィールド、高浜健康温泉センター等を活用した運動講座等を通じ、町民の健康増進と運動の習慣化を目指す。 運動講座等事業の実施にあたっては、健康づくりに関する知識や経験を有する地域人材「健康サポーター」と連携して取組を進める。

事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	健康スポーツゾーンを活用した講座開催回数及び参加者数	みずベフィットネス教室参加者数	人	目標	160	160	160
				実績	100	91	155
				達成率	62.5%	56.9%	96.9%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事業費 A		2,526 千円	2,492 千円	2,147 千円
		うち 会計年度任用職員人件費	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B		1.25 人 8,672 千円	1.25 人 9,119 千円	1.25 人 9,383 千円
事業費合計 C（A＋B）			11,198 千円	11,611 千円	11,530 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	452 千円	452 千円	452 千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
	一般財源（町の負担）		10,746 千円	11,159 千円	11,078 千円
受益者負担率（D／C）			0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	町民の健康増進を支援する事業であり、町が主体となって進める必要があるが、健康サポーターをはじめとした地域住民や、関係団体の協力を得ることで、取組の幅を広げる必要がある。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	町広報誌、ホームページ等を通じて、平等に受講者の募集を周知している。また、各人の受講数に制限を設けるなど受講者に偏りがないよう配慮している。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	多様な講座の開催と、開講数を増やし、多くの方が受講できるよう、健康サポーターの協力により、効率的に運動講座を開催していく。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	B	目標値どおりである	指標とする「みずベフィットネス教室」については、実施プログラムなどの構成を委託先と調整しながら、より参加しやすい教室に修正していく。

総合評価	**現状維持**	指標としている、健康スポーツゾーンを活用した「みずベフィットネス教室」については、令和7年度よりプログラムのリニューアルを図り、参加者の増に繋がったことから、引続き事業者と健康サポーターの連携を展開していく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	プログラムリニューアルの周知と募集の際には反響があり、早い段階で定員に達した。また出席率も向上した。

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	高浜健康温泉センターゆたん歩°の運営	担当課名	教育こども課
		担当係名	健康スポーツ係
（予算書コード）	10-05-04-05-01・10-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法	直　営	委　託
事業の開始・終了	令和　3　年　4　月 ～　　年　　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	下諏訪町高浜健康温泉センター条例、下諏訪町高浜健康温泉センター条例施行規則		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	町の財産である温泉を活かした公衆浴場、高浜健康温泉センター「ゆたん歩°」を利用者が安心して利用できるよう、管理運営する。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	高浜健康温泉センターの利用者数	年間の利用者数	人	目　標	47,000	48,000	50,000
				実　績	47,698	53,124	52,624
				達成率	101.5%	110.7%	105.2%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算		令和7年度決算		令和8年度予算	
事業費	事　業　費　A		38,378 千円		34,493 千円		34,919 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費		2.00 人	6,289 千円	1.00 人	3,694 千円	1.00 人	3,343 千円
	正規職員人件費　B		0.75 人	5,203 千円	0.75 人	5,471 千円	0.75 人	5,630 千円
事業費合計　C（A＋B）			43,581 千円		39,964 千円		40,549 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担		千円		千円		千円
		県の負担		千円		千円		千円
		町の借入		千円		千円		千円
		その他	14,801 千円		14,576 千円		18,077 千円	
		うち 使用料・手数料　D	14,489 千円		14,512 千円		18,000 千円	
	一般財源　（町の負担）		28,780 千円		25,388 千円		22,472 千円	
受益者負担率　（D／C）			33.246 %		36.313 %		44.391 %	

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	当施設は健康スポーツゾーンの拠点施設として位置付けられ、町民の健康増進に関する施策を展開していくうえで、町関係部局と連携した柔軟な対応が求められることから、直営により運営していくことが最善である。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	誰もが利用できる施設であることから、周辺の温泉施設と競合しないよう利用料金を設定している。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	安心安全かつ、衛生面に十分配慮した運営が求められるが、必要最小限の予算かつ、人員配置で運営している。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	B	目標値どおりである	年間利用者数は、増加傾向であり、、多くの方が定期的に利用してくれている。また、諏訪湖畔に隣接した場所にあり、観光で訪れた方にも好評をいただいている。

総合評価	現状維持	現在の運営体制を維持し、利用者に安心して利用してもらえるようサービス提供を継続していく。 また、経年による設備等の老朽がみられるため、年次計画的に修繕等を実施しながら、適正に維持管理していく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	